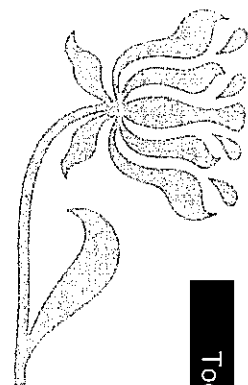


Tooth Fairy Project 報告

Tooth Fairy Project “ミャンマー・レポート”

学校建設と歯科事情を訪ねる視察報告記



小谷田 宏

第1章 “ほほ笑みの国”ミャンマー ～虚像と実像～

なぜミャンマー（旧ビルマ）に行くのか？

日本歯科医師会が日本財団に協賛して2009年6月からスタートした“Tooth Fairy Project（ツウース・フェアリー・プロジェクト）”は、約4500歯科医院の参加を得て“社会貢献事業”として定着してきた。この間、ミャンマーに10校の学校建設が完成し、大機などに小児がん・難病支援施設を建設中だ。

今年（平成24年）3月8日から12までの5日間、ミャンマーを訪問した。本来は昨年の同月に行く予定であったが、東日本大震災の影響で延期となり1年遅れの実施となった。

訪問の目的は、学校を視察すると共に、ミャンマーの子供たちの口腔の健康状況を調べ予防指導をし、多くの歯科関係者と交流し情報を共有して、今後に生かすことだ。

この訪問で何ができたか？！

今回の旅で実行できた主な事柄を箇条書きで示す。

- 1、小学校を視察訪問し、健診やブラッシング指導を行い、村民と交流。
- 2、首都ヤンゴンの歯科医院2軒を視察し、意見交換。
- 3、地方都市タウンジー歯科医師会と交流し、情報交換。
- 4、ヤンゴン歯科大学学長と懇談し、ミャンマーの歯科教育など現状と課題を聴く。
- 5、日本大使館に全権大使を表敬訪問し、ミャンマーにおける日歯の社会貢献事業や両国の歯科交流の今後について懇談、意見交換。

今回の視察は日本歯科医師会の仕事であったが、私個人としても貴重で得難い体験であり、また先生方にも興味深い事柄であろうと確信し、報告をさせていたきたい。



Tooth Fairy Projectの院用ポスター



歓迎の中をロンカン小学校訪問（中央左、筆者）

識字率90%以上なのに最貧国？！

陽光煌めくミャンマーは“ほほ笑みの国”と称され、リピーター率が最高とも言われる。識字率も世界有数で温和な国民性も評価が高い。一方で、圧政に喘ぎ世界で最も貧しい国の一つという芳しくない評判も定着している。この矛盾は何か？

今まで「政治」「経済」「衛生」のどの面をとってもネガティブなイメージが満ちていた。

ネガティブなイメージを言葉にするとこうなる。――「政治面」では軍事政権の独裁のもと国際交流が途絶え、サン・スー・チン女史の軟禁など。「経済面」では準鎖国状態で北朝鮮と同様に二重通貨性をとり、国民の生活が困窮など。「衛生面」では保健政策が遅れ、軟弱な日本人旅行者は体調不良になる不安など。

ところが、体験しないと世の中はわからない。それを改めて実感した。行った後の感想はこうだ。――「ほほ笑みの国”ミャンマーは、忘れていた日本の原点を教えてくれる素敵な国だ」。



ロンカン小学校の式典会場にて

新たな交流に向けて！

仏教徒が95%を占め、敬虔な信仰心を捧げる人々は、一様に穏やかで柔和である。人心が安定し、貧乏でも尖った感情が見られない。昔、日本にも“清く貧しく美しく”という言葉があった。皆が貧乏で物が無い時代の日本人はこうだったはずと想起させる。

もともとミャンマーは豊かな国だったようだ。しかし不幸な時代が時の流れを止めた。――ビルマ王朝、イギリス統治、日本と組んだ独立戦争、部族間抗争と軍事政権統治、米国等の経済制裁、隣国中国の影響などの歴史がそれを物語る。“ビルマの堅琴”は日本人に懐かしく、もともと日本との友好関係は根深い。

圧政も緩和されたこの時期に訪問できたことは幸運だった。6000万の人口と肥沃な大地が抱える潜在的なパワーは魅力的だ。ひとたび自由化への流れができれば、ほととばしる潮流になるだろう。国際社会に復帰した時、重要なマーケットになる。鈍感でスピード感に

欠ける日本（特に政府）は、またも後塵を拝するのだろうか。遅滞なく、両国にとってプラスの関係が進むことを祈る。



バゴダで折る人々

第2章 開業歯科医院を訪ねて

いざ！ヤンゴン（旧ラングーン）へ！（3月8日・木）10時45分成田を出発し、タイ航空で一路バンコクへ。7時間でバンコクに到着。乗り継ぎ便でミャンマーの首都ヤンゴンを目指す。バンコク空港で日本財団の尾形武寿理事長が合流し、現地時間18時40分にヤンゴン到着。時差2時間30分、日本時間21時10分。成田から都合10時間35分の長旅だ。

今夜一泊するトレーダースホテルは伝統と格式ある立派なホテル。歴史ある首都の顔としての存在感あり。まずはミャンマービールで乾杯。日本のビールに似て美味しい。ミャンマー料理は唐揚げなど油料理が多く、香りもキツメ。

ヤンゴンでの活動開始！（2012年3月9日・金）

朝食のミャンマー麵は具を入れなければ淡泊な味で旨い。シェダゴン・バゴダを見学に行く。

バゴダ（仏塔）とは釈迦の住む家を意味し、バゴダを建てて守ることで幸せな輪廻転生を得られるそう。金箔など寄進が限りなく、まさに黄金の極楽浄土を具現するかのよう。ミャンマーが誇る歴史的建造物であり文化遺産だ。

テーパーパークの如き大規模な仏塔群に圧倒される。西欧人観光客が多いのも納得がいく。

歯科医院2軒訪問

Ba Myint（バミン）先生、前ミャンマー歯科医師会会長

* 富裕層を対象とした清潔で高級感あるオフィスで、4つの個室診療室あり。

* 個室にルビーなど名称をつけ、内1室は特診室で別の出入り口と待合室がある。

- * 東北大学歯学部で勉強したので仙台は詳しい。富裕層はセラミックスなど審美のニーズあり。矯正治療は専門医が代診（セラプロ完備）。インプラントは未導入。
- * 国民人口6000万人に対し歯科医師数は約2500人で、都市に集中し偏在。
- * 歯科教育は5年制でインターン1年が義務。ユニットは中国製でシロナのコピー？ 機械器具は中国製が多い。
- * Tooth Fairy Projectには資金提供はできないが、医療提供で協力したいとのこと。



広い個室診療室が4部屋

Min Min Myat (ミンミンシャーツ) 先生、若い開業医
* 庶民を対象とした三軒長屋の内の一軒の狭小な医院。待合室1畳、診療室4畳位。
* 助手1人、ユニット1台のみだが、機種は新しく他の器具も清潔感あり。
* 診療は1日7時間で4〜12人位、収入は600〜1200円位とのこと。治療費は患者の収入による(公的保険はないので自費診療のみ)。



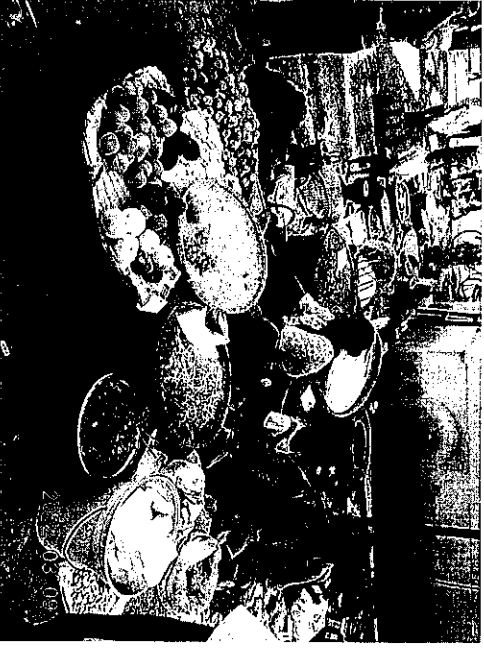
3軒の中央が歯科診療所

日本大使館で斎藤隆志 (特命全権) 大使を表敬訪問
* 最初に尾形理事長から日本財団の支援活動について説明あり。
* Tooth Fairy Projectにおける日本歯科医師会の役割と社会貢献について、及び今後の両国の歯科交流の可能性について説明したところ、感謝の意を表明され、要請があれば今後の協力したいとのこと。
* 大使やご家族・スタッフなどの歯科治療は、帰朝時に日本で治療すること。
視察した歯科医院の状況等を説明 (特にBa Myint先生のオフィスの様子) すると、緊急時には安心できそうだと納得された。



歯科医師会の社会貢献など意見交換

ヤンゴンから空路へーホーへ！
ヤンゴン発14時のプロペラ機 (ダゴン航空) で1時間10分の旅。へーホーは高地にあり、ヤンゴンに比べ涼しく爽やか。町への途中で市場を見学。相当汚い環境だが、ミヤンマー風パンケーキを少しだけ試食。ザラメをまぶした感じで甘ったるい。



町場のマーケットの様子

第27小学校訪問
* 支援事業により建設された学校が市場の近くにあるので、バイクタクシーに乗り訪問。
* 夕方の田舎道や川で裸足の子供たちが遊ぶ。
* サン・スー・チーさんに似た校長先生とTooth Fairyのスクリーンボスターの前で記念撮影。感謝の言葉を頂く。
* 夕方まで学校は終わっていたが、様々な事情で学校に普段来られない子供たちが5人が、補習授業を受けて勉強中。厳しい環境でも笑顔が素敵な子供たちだ。



Tooth Fairyボスターと校長先生と共に

この地には宿泊施設がなく、ゴルフ場のロッジに泊まる。プレーヤーは全く見かけず。
なんと近くのワイナリーで夕食を食べることに。意外なようだが、ドイツのワイン技術を導入し、白・赤・ロゼとも美味しいワインが飲める。実はコーヒーも名産で、小さなへーホー飛行場の狭いカウンターで入れたコーヒーの旨さにショックを受けた。
明日は辺境の地まで、朝5時起床で悪路を数時間のキツイ行程のようだ。頑張ろー！

第3章 辺境の小学校を訪ねて

いよいよロン・カン公立小学校へ！ (3月10日・土)
ロン・カンはロッジから車で2時間30分、ボートで1時間かかるそうだ。
朝6時に出発。朝食は途中で町の食堂を利用。茹で麺に揚げ出し豆腐や豚唐揚げや青菜を入れて食べる。塩味スープは美味しい。ミヤンマー式トイレも体験。手酌で水を流すが、紙は流さない。田舎町の朝は牧歌的な雰囲気漂う。



早朝6時過ぎ町場の食堂で



水路で沐浴と洗濯する夫婦

道路は町の中こそアスファルト舗装だが、外はデコボコ道の連続。揺られ揺られて長く険しい道のり。村人が毎年1メートルずつ舗装をしているとのこと。

偶然の出会いで民家に上がる！
車窓に流れる景色に救われるが、途中で突然パンク。運転手が鉄パイプでジャッキアップし、タイヤ交換。周囲は静かでのどかな村の景色が広がる。ゆるやかで穏やかな時の流れ。
近くの民家で写真を撮っていたら、家にながってと招待され、茶と菓子を出してくれた。竹と木の簡素な住まいで、壁も床も隙間が多く暑さ対策だけの素朴な構造だ。



高床式の竹と木の簡素な住居

やっと船着き場に着き、4〜5人用ボートで目的地へ向かう。船外機エンジンが騒々しいが、バスより乗り心地よく風に吹かれて気持ちいい。
草を食む水牛、水上の住居、水上生活者の釣り、川に突き出た立派なパゴダ（仏塔）など変化に富む景色を楽しむ。

やっと、ロン・カン村に到着！

ロン・カン公立小学校を視察訪問

* ボートが水草に絡まり遅刻したが、村を挙げての大歓迎に感激。ボート用の簡易な棧橋も今日のために作ってくれたようだ。

* 村人が全員集合し、鉦や太鼓で学校まで行列する中、私達も民族衣装のロンジーを身にまとい学校に入場。校舎で茶と菓子を振舞われる。



会場に集まった子供たちと村人

* 式場には子供たちと保護者が立錫の余地なく集合。校長先生の歓迎挨拶の後、尾形理事長が日本財団の学校建設事業を説明。次いで、私と浦田先生（熊本県歯会長）がTooth Fairy Projectと日本歯科医師会の社会貢献事業を説明し、学



細長いインレー湖をボートで1時間



民族衣装の子供達に齒ブラシ等を贈る

校で習う事を地域社会や国に生かすよう要望。その後、齒ブラシやよ坊さんグッズなどを贈呈。

* 続いて、2つの部族（バオ族とシャン族）の子供たちが各々の民族衣装で踊りを披露。

最後に村の長の坊様が感謝と徳の心の大切さを説いて、式典は終了した。

（滞りなくと言いたいのが、自家発電の電気が切れて何回か中断したのは御愛嬌）。

* 学校で昼食。魚（ピラルク）の唐揚げは少し食べたが、それ以外はミネラル・ウオーターのみ。

歯科健診

* 歯科健診を希望する子供は最初少なかったが、始めたら遠巻きに見ていた子供たちが殺到して大盛況。

* 乳臼歯のウ蝕が多く、下顎D Eが最多。次に上顎D E・下顎Cが多い。ウ蝕なしは少数で、通常2本〜4本、最大で8本。歯科治療の経験者はゼロのようだ。



歯科健診に集う子供たち

フライング指導

* 保護者を交えてフライング指導。持参した顎模型を使い、全員に配布した歯ブラシの持ち方、当て方、動かし方などを解説。皆、熱心に聴く。

予定が終わり、お土産のケン玉、サッカーボール、縄跳びなどを皆で楽しむ。その後、村を見学。貧しい民家が多く、互助の必要性を感じる。自家製プロクを土産にもらう。

来た道をボートと車に揺られながら、満足感を道連れに3時間半かけて帰った。



子供も大人も熱心に聞いてくれた



小学校校舎の前で歓声

タウンジー市で歯科談義で盛り上がる！
タウンジー歯科医師会と懇談会

* イギリス統治時代1500mの山頂にできた大きな街タウンジーに登る。タウンジー歯科医師会の会長ら5人と会食して情報交流。Tooth Fairy Projectと日本歯科医師会に感謝の言葉あり。



タウンジー歯科医師会メンバーと一緒に

* クラウンジーは人口50万の地方都市だが、歯科医師会員は51人（会長は国立病院所属）。他に非会員28人がいるが、歯科医業の専従は20人とのこと。

* 出席した夫婦の歯科医師の月収は、夫（政府系の研究者）が80ドル程度で、妻（開業医）はそれより多いとのこと。

* 歯科医師会は週2回無料で健診をしているが、奥地まで行く予算がない。

* ユニットは中国、薬品器具類は日本が最大で、イタリヤ・韓国が続くとの情報。

* 治療費は患者の収入に合わせてまちまち。

* ちなみにインプラントは1本1.4万円という話。研修の機会がなく導入できないので、日本の研修支援を望む。

第4章 歯科大学長と語る

再びヤンゴンへ！（3月11日・日）

ヘーホー空港からヤンゴンに到着。学長との懇談に臨む。ヤンゴン歯科大学（University of Dental Medicine, Yangon）学長のMyo Win（ミョウウィン）先生と昼食・懇談。

支援事業を説明。Tooth Fairy Projectと日本歯科医師会に感謝の意を表された後、私の質問に答える形で、下記の諸点の見解を披歴された。

<日本との連携の経緯>

* ヤンゴン歯科大学は東京医科歯科大学と交換留学生を永年実施してきた。

* 留学期間は5年間であったが、軍政と共に短期留学に変更された（2カ月～1年間）。軍政が緩和したので長期留学に戻せるよう医科歯科大に要望している。

<歯科教育の現状と課題>

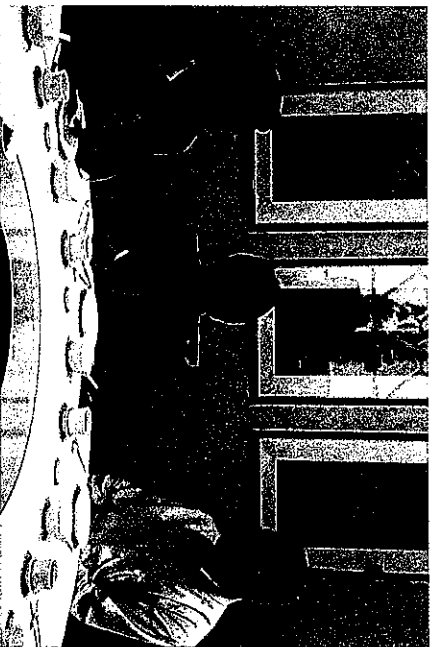
* ヤンゴン大学・マンドレー大学2校で150人ずつ年間300人卒業するが、都市集中のため歯科医師の偏在が悩み。

* 軍政時代は海外留学プログラムが途絶えたが、最近では日本・タイなどへの留学が増えつつある。

* 歯科医師数は全国で約2500人だが、その全員が歯科医業を専業しているわけではない（別の職に就くか、兼職もいる）。

<歯科保健の課題と国との交渉>

* ヘルスクアの普及啓発がなく、子供から大人まで歯科受診の機会が少ない。
ただし、最近では国家保健事業予算が2～3倍に増えた。
* 公的保険もなく政府との交渉は少ないが、ミャンマー歯科医師会は保健省と交渉することがあ



ミョウウィン学長に歯科事情を聴く

る。大学人は保健省の役人を兼務することが多いので交渉事には手続きが必要。

* 約10年前に村井先生がSchool Dental Health Programで学校訪問した。

<大学と歯科医師会の管轄等>

* 大学は保健省が統括するが、歯科医師会・開業医は制約なし。

* 歯科医師会は中央歯科医師会（ヤンゴン）を初め計10ある。

<他国・FDIとの連携>

* 韓国の歯科大学から兎唇口蓋裂手術の件で訪問したいとオファーあり。

* FDIは1980年からメンバーに加盟している。FDIとミャンマー歯科医師会とのジョイントミーティングを年1回開催している。

<国内の医科歯科連携>

* ヤンゴン第一・第二医科大学と大学レベルの医療連携をしている。

<機器・メーカーなど>

* 1945年にProf.山田を通じ日本政府からユニット提供（ヤンゴン10セット・マンドレー20セット）。

* 日本企業の進出は軍政時代に途絶えたが、GCとモリタが最近復活中。

<自分の生き方>

* 学長は政府の役人でもあるが、プライベートで夕方から診療する。

* 人生のモットーは「出来ることをベストにやる」こと。

* 公務員として金銭的に恵まれたわけではないが、自分の生徒を優れた人物に育てたい。



水牛やバイクが大活躍

さよなら、ミャンマー！

9時40分ヤンゴン出発、バンコクを経由して成田へ。

3月12日（月）7時30分、成田到着。日常生活・日常診療が待っている。

第5章 "地域開発事業"としての学校建設

ほどこし事業ではない！

学校建設は単なる"ほどこし事業"ではない。"地域開発事業"として地域社会の自主的な努力が示されてこそ支援が実行される。日本財団の辺境地域を対象とした支援活動は、地域住民が中心的役割を担い自立を図れる方策を建て、住民参加型プロジェクトとして継続的な収益の手段を具体化し、利益を経費に充当する開発システムづくりである。

ロン・カン村の自助努力

例えば、政府派遣の教員数では不足する場合、地域雇用の教員を確保しなければならない。そのための取り組みの一例をデータと共に示す。

<ロン・カンLon Kan村>

- ①地区 南ジャン州ニャウンシェ郡
- ②世帯数 419世帯（2012年2月現在）、
- ③人口 2,109人（同）
- ④民族 シャン族・インダー族・バオ族、
- ⑤宗教 仏教
- ⑥産業 農業（住民の70%、トウモロコシ・豆・米）
- ⑦漁業（住民の30%、タイラピアなど淡水魚）

- ⑦年収 平均12万円～18万円
- ⑧電気 政府の電気供給なし（僧院と村東部に発電機各1台）



目を輝かせる子供達

<ロン・カン公立小学校・準中学校>

- ①生徒数 Gradel～Grade8の生徒316名（2011年度）
 - ②教員数 11名（政府派遣教員8名・地域雇用教員2名・主事1名）
 - ③卒業後の進路 家事手伝い・進学
 - ④校舎サイズ 約27m×9m
- <建設事業と地域開発事業>
- ①費用負担 Tooth Fairy 基金から237万円＋村の自助努力46万円
 - ②村が小規模金融事業を行い地域の自立を目指す。